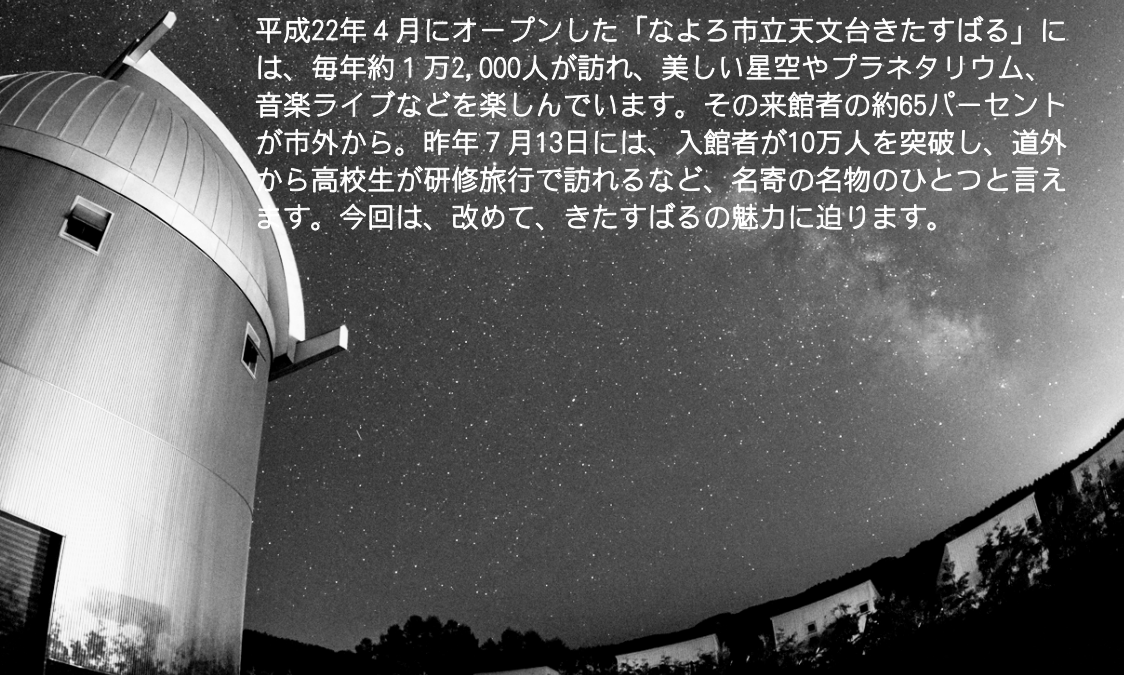


広報 なよろ

特集 星も、音楽も、天文台で楽しむ



平成22年4月にオープンした「なよろ市立天文台きたすばる」には、毎年約1万2,000人が訪れ、美しい星空やプラネタリウム、音楽ライブなどを楽しんでいます。その来館者の約65パーセントが市外から。昨年7月13日には、入館者が10万人を突破し、道外から高校生が研修旅行で訪れるなど、名寄の名物のひとつと言えます。今回は、改めて、きたすばるの魅力に迫ります。

表紙	1
もくじ	2
特集 天文台	2 - 3
きらめくまちビト	4
声 - Voice -	5
民生委員を紹介します	6 - 7
市立総合病院からのお知らせ	8 - 9
年に1度特定健診を受けましょう	10 - 11
フォトでお知らせ - 広報版 -	12 - 13
チャレンジデー	14
健康ガイド	15
安全な登山・山菜取りを心がけましょう	16
町内会に加入しましょう	17
名寄市立大学の窓から ～知への誘い～	18
EN - RAYホールイベント情報	19
ひまわりのまちプロジェクト	20
もっともち米プロジェクト なよろっばい家づくりの会	21
健やかな成長を願って	22
生きがい講座利用者募集 今月の手話	23
体育施設オープン情報 天塩川だより	24
男女共同参画社会の実現をめざして 消費生活センター通信	25
施設のお知らせ	26 - 28
暮らしのお知らせ	29 - 33
裏表紙	34

トップクラスの星空
名寄市周辺は、光害が少なく、また盆地で気流が安定していることから、国内でもトップクラスの星空を眺めることができます。きたすばるでは晴天時に「50センチメートル反射望遠鏡(愛称:きたてらす望遠鏡)」や国内最大級の口径を誇る北海道大学所有の「1.6メートル反射望遠鏡(愛称:ピリカ望遠鏡)」を利用して、惑星や月、星雲の姿を見る観望を行っています。「きたてらす望遠鏡」では昼間の空でも、明るい1等星など限定的ですが、観望することができます。

天文台の歴史
名寄高校の教員だった木原秀雄さん(故人)は戦前から天体観測を行っていましたが、退職を機に、昭和48年、自宅横に「私設木原天文台」を開

設しました。当時、日本で最北の私設天文台でした。その後名寄市は平成4年に天文台の寄贈を受け、同年9月には「市立木原天文台」としてオープン。その後、現在の天文台がオープンするまで、超新星の発見や、低緯度オーロラの撮影など多くの成果があります。

星と音楽のコラボレーション
きたすばるの特色は「音楽」です。レクチャールームでは天文台の企画や持ち込みの企画などで、毎月1回程度ピアノやアコースティックライブなどが行われ、入館者を魅了しています。また、プラネタリウムにはアップライトピアノが設置されており、プラネタリウムの幻想的な雰囲気の中で、コンサートが行われることもあります。

プラネタリウムで熟睡!
プラネタリウムでうとうととしてしまう人も多いのではないのでしょうか。それならいっそ「寝ることを目的にしよう」と行われているのが、「熟睡プラネタリウム」です。平成23年に明石市立天文科学館で始

今年度注目の★天文現象

★15年ぶりの火星大接近

火星は、2年2カ月ごとに地球に接近し、さらに15年ごとに大接近します。今年は、その大接近の年にあたり、いつもの接近時よりさらに明るく、望遠鏡で見ると、黒い模様や、「極冠」と呼ばれる極地方の白い部分も見ることができのかもしれない。

最接近の日は7月31日(火)ですが、前後2週間ぐらいは同じように大きく見えます。

★惑星が大集合

今年の夏は火星だけでなく、夕方から金星、木星、土星と順に見えてきます。さらに8月中旬過ぎの遅い時間帯になると、天王星や海王星も望遠鏡で見ることができるようになります。多くの惑星を見るチャンスです。

★ペルセウス座流星群が好条件

8月12日、13日を中心に流星が多く流れるペルセウス座流星群は、月明かりがない方がより多く見られます。今年は8月11日(土)が新月なので、月明かりを気にすることなく多くの流れ星を見られるかも。

★1月6日に部分日食

年が明けてすぐの1月6日(日)に部分日食が起こります。この日食は北に行くほど欠ける割合が大きくなる部分日食で、名寄は日本国内でも好条件と言えます。直接太陽を見ることは危険ですが、特別な太陽メガネや天文台にある特別な望遠鏡を使うと安全に見ることができます。



▲サイエンス・カフェ



▲杉並区での観望会



▲入館者10万人突破



▼小惑星発見プロジェクト



▲お月見観望会



▼きたすばる★どっとこむ

発見にいたってはいいませんが、昨年はもしかしたら…というところまで迫りました。プロジェクトを通じて天体を身近に感じ、興味を持ってもらうことで、世界に羽ばたく人材の育成を目指しています。

子どもでも小惑星を発見できる？
平成23年から始まった「小学生による小惑星発見プロジェクト」は、市内の小学5、6年生から希望者を募り、きたすばるの望遠鏡や特殊なカメラを使って新しい小惑星を探すもの。残念ながら、今まで

きたすばるでは超新星や、地球のすぐ近くを通過して行く小惑星の観測を行っています。また、恒星についての研究を論文で発表するなど、世界に向けて発信をしています。そして、このような天文に関することについて、コーヒー

研究と普及活動

市外でも活躍する移動式天文台車「ポラリス2号」
口径40センチメートルの大型望遠鏡を備え、屋根を開放できるように改造されている移動式天文台車「ポラリス2号」。普段は市内のイベントや学校での観望会に出張しますが、交流自治体の東京都杉並区や近隣の市町村から呼ばれることも。杉並区では、区内の小学校で授業をするほか、夜には一般の方向けの観望会を実施しています。

きたすばるの開館情報など、詳しくは28ページに掲載しています。音楽イベントや観望会、プラネタリウム、または「今晚は晴れてるから星を見に行ってみよう」と、気軽に訪れてみてはいかがでしょうか。

を飲みながら聞いてもらう「サイエンス・カフェ」を行うなど、普及活動にも力を入れています。
情報発信
これらきたすばるの情報は、天文台ウェブサイトやメルマガで公開しています。また、市内の有志の方が毎週水曜日に、インターネットで「web-TVきたすばるどっとこむ」という番組をきたすばるから放送し、天文情報や名寄市の情報を発信しています。

